

課題名	94 無毒化用優良母樹の探索と保存	分類	③
	ブドウ「巨峰」の優良母樹の選抜		
試験研究年次	62年～1年(完了)		
I 目的 果実品種が優れ、着果負担力のある優良系統を収集・選抜し無毒化用の母樹とする。			
II 試験方法 1 調査対象樹として、2樹を選定した。選定基準としては、各地域の品評会等で優秀な成績を修め、現地で高い評価を受けている樹とした。「M」はテレキ8B台で29年生、露地栽培、62年から調査を開始した。「H」の台木は不明だがテレキ系の台木と推察される。19年生で露地栽培、63年から調査を開始した。 2 調査に供試した果実は、主枝の先端部、中間部、基部からそれぞれ採取した。62年は「M」を7月28日、8月12日、9月4日の各時期に各3房サンプリングを行なった。63年は「H」・「M」とも8月18日に各6房サンプリングを行なった。1年は「H」を8月5日に、「M」を8月31日に各9房サンプリングを行なった 3 ウイルス検査は、62年8月「M」をコーキーバーク検定として「LN33」に1本、フレック、ファンリーフ検定として「St,George」に1本緑枝接ぎを行ない検定を開始した。63年5月「H」・「M」ともリーフロール検定として「Cabernet Franc」に3本、コーキーバーク検定として「LN33」に3本、フレック、ファンリーフ検定として「St,George」に3本緑枝接ぎを行い検定を開始した。			
III 主要成果の概要 1 「M」は、観光ブドウ園で1房が35粒前後と大房傾向にあるものの、3か年の果実調査結果では、1粒重が11.7～14.1gと優れていた。 2 「H」の63年産果実は、8月12日時点で9割方収穫が終了、果実調査の結果でもカラーチャートの着色指数で8.3と高く、1粒重は12.6gであった。1年度果実は、8月5日の果実調査で着色指数が7.0と対照樹の6.0に比べ高く1粒重は12.9gであった。「M」に比べ「H」は、特に着色が早く、着色程度も高いため盆前出荷用に適する。 3 木本植物によるウイルス検定の結果、「M」・「H」ともフレック保毒が確認された。			

IV 主要成果の具体的データ

第1表 「M」の果実品質調査(62年)

調査 月日	結果枝 基部径 cm	結果枝 長 cm	葉数 枚	全粒重 g	1粒重 g	粒径 指数	着色	種子数 粒	Brix
7月28日	9.0	100.8	18.7	377.6	11.5	95.6	-	1.2	12.0
8月12日	8.0	82.7	20.0	362.5	13.2	92.2	3.7	1.3	14.6
9月4日	7.8	99.0	18.3	380.3	14.1	89.5	7.1	1.3	18.0

第2表 「H」「M」の果実品質調査(63年)

系統	結果枝 基部径 cm	結果枝 長 cm	葉数 枚	全粒重 g	1粒重 g	粒径 指数	着色	種子数 粒	Brix
H	7.9	87.2	16.3	347.4	12.6	94.2	8.3	1.2	18.7
M	8.9	88.0	18.6	456.7	11.7	92.8	6.2	1.3	16.7

注) ① 「H」「M」とも、63年8月18日調査

第3表 「H」「M」の果実品質調査(1年)

系統	結果枝 基部径 cm	結果枝 長 cm	葉数 枚	全粒重 g	1粒重 g	粒径 指数	着色	種子数 粒	Brix
H	9.1	101.3	19.7	341.7	12.9	93.8	7.0	1.3	16.3
Cont	9.0	88.1	14.7	352.4	11.8	94.1	6.0	1.5	16.1
M	8.3	84.8	18.7	425.8	13.4	86.3	6.4	1.6	18.5
Cont	7.9	74.7	18.1	453.4	13.3	86.1	5.5	1.5	17.8

注) ① 「H」は1年8月5日、「M」は1年8月31日調査

② Contは「H」「M」とも同一園、同一樹齢の樹とした。

第3表 木本植物によるウイルス検定(1年)

系統	検定対象ウイルス	検定植物	検定本数 本	接木月日	判定月日	結果
H	リフロール コーキハーク ファンリフ、フレック	Cabernet Franc	3	63.5	1.11	-
		LN33	3	63.5	1.11	-
		St. George	3	63.5	1.7	+(フレック)
M	リフロール リフロール コーキハーク ファンリフ、フレック ファンリフ、フレック	Cabernet Franc	3	63.5	1.11	-
		Pinot noir	1	62.8	1.11	?
		LN33	3	63.5	1.11	-
		St. George	3	63.5	1.7	+(フレック)
		St. George	1	62.8	1.7	+(フレック)

注) 結果の項の、「-」は現在継続調査中。「?」は不明。「+」は保毒。

V 成果の評価と取扱上の留意点

「M」は果粒肥大、「H」は着色の点で優れており、無毒化用優良母樹として利用できる。

VI 今後の研究上の問題点

ウイルスフリー化とその後の果実品質。

VII 資料名

63年度 福岡県農業総合試験場果樹苗木分場試験成績書